

会 議 録

◇詳細—企画調整グループ 電話03-3981-4201

附属機関又は 会議体の名称		平成26年度 基本計画策定委員会(第4回)
事務局(担当課)		政策経営部企画課
開催日時		平成 26 年 10 月 10 日(金) 18 時 00 分～19 時 00 分
開催場所		第1委員会室(本庁舎4階)
議題		(1) 将来人口推計について (2) 区民ワークショップ実施結果について (3) 現状と課題について
公開の 可否	会議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区行政情報公開条例第7条第1項第5号による
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	副区長(委員長)、副区長(副委員長)、教育長(副委員長)、政策経営部長・特命政策担当部長(欠席:代理あり)・総務部長・施設管理部長・新庁舎担当部長・区民部長(欠席)・文化商工部長・清掃環境部長・保健福祉部長・健康担当部長・池袋保健所長・子ども家庭部長・都市整備部長・地域まちづくり担当部長・建築住宅担当部長・土木担当部長・会計管理室長・教育総務部長・選挙管理委員会事務局長(欠席)・監査委員事務局長・区議会事務局長(欠席)
	幹事	財政課長(欠席)・行政経営課長・区長室長・施設計画課長
	説明者	企画課長
	事務局	企画課企画調整グループ係長

審 議 経 過

(1) 将来人口推計について

《案件の説明》

説明者： 資料に基づき、将来人口推計について説明。

現時点での途中経過の報告である。ベースにしているのは住民基本台帳の人口であり、推計手法としてはコーホート要因法を用いている。移動率の仮定は、将来にわたって一律とし、移動率を算定した期間は直近 5 年分と 10 年分の 2 パターンで行なった。平成 40 年までの推計であるが、右肩上がりで伸びていく状況である。なお、社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）や日本創成会議が行なった移動率が縮小するモデルの推計も試みているところである。

《主な意見と質疑》

委員： 地域保健福祉計画でも人口推計を行なっている。基本計画と異なっても差し支えないか確認したい。

説明者： 各分野別計画では既に作業が進んでいる。多少のズレや違いが出て止むを得ないと判断している。ただし、それぞれどういう手法で推計したのかは明らかにしておく必要がある。なお、次期計画の際に基本計画に合わせることは可能と考える。

副委員長： 人口推計は決めの問題である。これと施策との関係をどう考えるか。

説明者： 本来であれば人口推計を基に10年間の事業量を出すべきであろうが、精度的にも難しいと思う。現行計画では前期5年間を示し、残りの5年については改めて示すこととした。

副委員長： 区として今後、どの推計値を選択して施策を打っていくかということもある。放っておくところなるが、こういう施策を取ることでこうなるという面もある。その段階での施策の考慮はどう考えるのか。

説明者： 今後の検討である。

副委員長： 社人研の推計は施策が入っており、地方から東京への人口の流入が収まることを想定している。政府の政策を考えると、ひと捻り入れないと説明は難しいと思う。

委員： 推計として出すのであれば中位推計と思うが、人口の問題で注目されている本区にとっては大きな判断である。マックスとミニマム両方を出すことがニュートラルな姿勢だと思う。

説明者： 審議会での人口推計の審議は、今月と来月を予定している。今回は現時点での推計状況を報告することとさせていただきたい。

(2) 区民ワークショップ実施結果について

《案件の説明》

説明者： 資料を基に、基本計画策定のための豊島区民ワークショップの実施結果について説明。

10月4日(土)、5日(日)に上池袋コミュニティセンターで開催した。住民基本台帳から無作為抽出した3千人のうち申込者は52人であった。年代的にも比較的バランスがとれ、地域的にも偏りはなかった。実際の区民参加者は10月4日が39人、5日が36人で、保育利用もあった。区民のほかに立教大学の学生にも参加いただいた。

2日間で3回討議を行ない、福祉・子育て、街づくり、まちの賑わいなどについて課題と対応策などの提案をいただいた。報告書として取りまとめ、今後の検討に活用していく。

《主な意見と質疑》

委員長： 参加者はどのような方々だったのか。

説明者： としまF1 会議のメンバー、まちづくりの活動をしている方、公務員 OB、大学で教鞭をとっている方、外国人の方もいた。多士済々であったと思う。

(3) 現状と課題について

《案件の説明》

説明者： 基本計画の8つの地域づくりの方向のうち、今回は「2.すべての人が地域で共に生きていけるまち」、「3.子どもを共に育むまち」、「5.みどりのネットワークを形成する環境のまち」の現状と課題について整理した。基本構想審議会においては、各政策の進捗状況として現状、課題、今後の方向性について説明し、計画がどのように進行しているかを報告したい。

《主な意見と質疑》

委員長： 政策評価委員会でいただいた成果指標などの意見は、今後どのように反映していくのか。基本構想審議会にも報告していくべきではないか。

説明者： 取りまとめたうえで報告したい。

副委員長： 子どもの権利保障の政策の中で、子どもスキップの質の向上とあるが、スペースなどは学校に内在している部分でもある。調整や連携が基になることが分かる表現が良いののではないか。幼児教育では、就学前教育を幼稚園、保育園、また私立、公立を問わず進めていく必要がある。みどりの創造と保全の政策のところでは、生物多様性の視点、方向性をきちんと示したほうがよい。

説明者： 調整をさせていただく。

委員長： 資料を修正して提出するように。以上で本日の委員会を終了する。

会議の結果	審議会への提出資料については、必要な修正を加えたうえで提出する。
-------	----------------------------------

提出された資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区将来人口推計の状況 ・基本計画策定のための区民ワークショップ実施結果(簡易報告) ・地域づくりの方向に係る現状と課題② ・地域づくりの方向に係る現状と課題③ ・地域づくりの方向に係る現状と課題⑤ ・基本構想審議会における「豊島区の現況について」の説明予定資料 別紙1 豊島区の財政状況
----------	---